

北海道 地域本人交流会 報告

主催	道南本人交流会実行委員会	担当者	佐藤悠子
開催日時	2009年 11月 7日(土) 12:30 ~ 15:30		
会場	函館市総合福祉センターあいよる21		
参加者	道南本人交流会からの参加者 認知症の人(3人)、介護家族(2人)、支援者(6人)		
	外からの参加者 認知症の人(1人)、介護家族(1人)、支援者(1人)		
内 容	<p>日程</p> <p>12:45 少しずつ集まりはじめる</p> <p>13:00 開会、みんなで一緒に過ごす</p> <p>14:00 家族が「家族のつどい」用の部屋に移動、トイレ休憩</p> <p>14:10 認知症の人、家族に分かれて、それぞれのつどい</p> <p>15:00 家族と一緒にすごしていた部屋に戻ってくる、トイレ休憩</p> <p>15:10 それぞれの感想を聞く、手の写真を撮る</p> <p>~15:30 閉会、一緒に後片付け</p>		
	<p>本人交流会の様子・印象に残った出来事など 報告書に掲載可能な写真を付けてください。</p> <p>いつものようにそれぞれの自己紹介からはじまりました【写真】。道南以外から来られた方があり、函館の観光案内、それぞれの地元の状況について話が進みました。</p> <p>認知症の人、家族に分かれて、それぞれのつどいをしている中では、認知症に対する工夫、利用しているサービスや禁煙などの話が出ました。要介護認定を受けたものの、まだサービス利用につながっていない認知症の人からは、すすめられて見学しているところと、利用したいサービスが違うこと。グループホームから職員さんと一緒に来られた認知症の人からは、家族から見捨てられたように見える利用者がいて、かわいそうだという話。道南以外から来られた認知症の人からは、心理学の本を注文して読んでいる話などがありました【資料】。</p> <p>当会は出入自由で一部参加も可にしており、車椅子の女性は、疲れたと途中で退席されました。</p> <p>認知症の人たちが話している間、家族は家族同士、障害年金や住宅ローンの話。認知症の人が働き続けられるよう作業所などを探している話などがありました。</p> <p>最後の感想は、当会の今後の話になり(下記参照)、認知症の人・家族・支援者と一緒に後片付けをしました。</p>		
	<p>参加者の感想(認知症の人、支援者)</p> <p>感想を言っていました、当会の「来年度の予定は白紙だ」という話から、「私は(このまま)ずっと続くものだと思ってた」という認知症の人もあり、「こういう会は難しいんじゃないかと思う」という認知症の人もあり、家族と支援者が交じって、当会の今後の話になりました。意見は次のとおり。当会は今年度中に来年2月にもう1回予定しており、引き続き考えていくことになりました。</p>		

認知症の人「人と交わることは苦手。でもこの会は大儀でなくて。私は（このまま）ずっと続くもんだと思ってた」

認知症の人「こういう会は難しいじゃないかと思う。（私は）脳卒中の会に入っていて、そっちが終わってこっちに鞍替えした」

家族「ずっとつながることを祈ってます」

支援者「ずっと続けられるように、私たちもする体制をつくっていけたら」

支援者「人にふれるってことがいいですね。交流会いいですよ」

主催者の反省・感想・意見など

いつもの当会の参加者に、道南以外から1組来ていただいたの開催になりました。北海道全域に呼びかけましたが、道南以外からは日帰りでは難しいこともあり、他の問い合わせをいただいた方が出席に結びつかず残念でした。しかし、広報の過程で、さまざまな場面で本人交流会を説明する機会があり、本人交流会を知っていただくことには役だったと考えています。



「本人のつどい」でのやりとり

【困っていることの話から、本人交流会の話へ】

支援者「　　さん（Aさんの名前）、何か困っていることありますか」

Aさん「困っていることない」

Bさん「今、困っているとしたら、仕事がないことだ」

支援者「どんな仕事がしたいですか」

Bさん「人事労務関係の...」

支援者「なんか難しそうな仕事ですね」

司会「　　さん（Cさんの名前）はどうですか」

Cさん「困りごと電話相談っておりますね。（本人交流会のチラシで連絡先の一つが家族会になっているのを見ながら）この支える会ってどこまで支えるの？」

支援者「どちらかと言うと家族の...、サービスもないし...、自分たちで悩みを言ったりして積み重ねてくるんですね」

Cさん「函館の支える会っていうのも、家族の...」

支援者「これからじゃないですか、本人交流会もはじまったし」

支援者「　　さん（Cさん）が力になるかもしれないし」

【利用サービスについて情報交換、他利用者の話も】

Aさん（子どもから大人までが一緒にすごすデイサービスを利用中）「子どもをあずけて、お母さんは買い物行ったり、認知症の大人の人もいるんですよ。私、卓球好きなんです。卓球台用意してくれて、卓球するんですよ。卓球台用意してくれたんだと思って。認知症の人多いんですけど、卓球する人いなくて、職員の男の人としてるんですよ。体動かすの好きだから。前も、仕事帰りに　　（歓楽街の地名）とかに行つて、タクシー乗らずに歩いて帰るんですよ、1時間くらいで」

Cさん「へえ、1時間で着くんですか」

支援者「ああ、　　さん（Cさんの名前）も　　（地名）に住んでたんですもんね」

支援者「これからの季節は危ないですよ」

Aさん「これからの季節はしないです」

支援者「　　さん（Bさんの名前）、グループホームではどうですか」

Bさん（グループホームに入所中）「誕生日とかあると当番の人がデコレーションケーキとか買ってきて、お茶とか入れて」

支援者「けっこう施設とか、季節ごとに行事をいっぱいしてくれるんですね」

支援者「これからクリスマス会とかありそうですね」

Bさん「困るのがね。家族に捨てられて、一人ポツンといるの、かわいそうだね」

Cさん「お一人様っているからね」

Bさん「この間、布袋さんやらされて（笑）」

支援者「体格が...（笑）」

支援者「何かつくったりするんですか」

Bさん「つくるの好きですからね。1枚を切って、あれをやれば」

【禁煙の話】

支援者「　　さん（Aさんの名前）はタバコ吸いますか」

Aさん「5本くらい。父親がヘビースモーカーで、炭坑で働いててりん粉がね。肺ガンでね」

Cさん「あの時代の労働環境じゃね」

支援者「　　さん（Bさんの名前）はタバコ吸われるんですか」

Bさん「やめようと思ってもね、まわりが吸うとね」

支援者（看護師）「まわりの協力もないとね、私も吸ってたからわかりますよ」

支援者「看護婦さんはねえ」

支援者（看護師）「病院は全面禁煙になったんですよ」

Cさんは実はヘビースモーカー。発言したくなさそうなので支援者もCさんにふらない。

【家族の認知症の話】

支援者（看護師）「私も家に帰れば80代の父や母がいてね、家族の立場になるんですよね。こういう会に参加して、何かの役に立つのかと思って」

支援者「家族の立場に立つと客観的に見えなくなる」

Cさん「私も姉が認知症になって、理解できなかったですよ。『また、ぼけちゃって...』ってね（笑）」

支援者「『年取ったから...』とかね」

【認知症に対する工夫の話】

Aさん「病院で薬もらって毎日飲んでますけど、血圧は何ともない。朝野球（草野球）で審判やってるものだから、あっち痛い、こっち痛いというのはない。物忘れは自分で物を書いたりしているから大丈夫じゃないかと思っている。なんだかんだ、自分で考えてするようにしている。新聞でよく出ますよね。これがいいかなと思ったら本屋行って、なかったら注文したりして、気に入った本っていうか、注文してみて違うこともあるからね」

支援者（Aさんが自己紹介でドリルをしていると言っていたため）「ドリルされてます？」

Cさん「ドリルなにそれ...。そういうのに参加したいんだよね。（パワーリハビリは）これまでに2回ほど見に行ったんだけど。宅老所なのかな、面倒見てくれて（というところを探している）。段取りっていうのが困りますね、掃除するのに、こうしてから先にとか、そういうのは何...」

支援者「ヘルパー」

Cさん「ヘルパー。要支援だと思ってたら要介護だったんだ。でも、これまでに利用したことない」

支援者「ケアマネジャーさんに言ってみれば」

支援者「　　さん（Aさん）は何かされてますか」

Aさん「新聞読んで、本買ってきて、内容が違ったりすることもあるけど」

支援者「おすすめは。どういうジャンルを読むんですか」

Aさん「心理学が多い、物語はあまり...」

【支援者への助言】

支援者「今度、　　（地名）へ行くんですよ」

支援者「　　（地下鉄の駅）で降りて」

Cさん「知らない人が地下鉄なんかに乗らない方がいい。出口間違えたら認知症よりひどいことになる。分からなくても聞けないでしょ。認知症は恥もないから聞くけど」

支援者「前に　　（地名）に住んでおられたんで

介護新聞

11月12日

2009年
(平成21年)

No.504

毎週木曜日発行

年間購読料:12,000円

(前納、税・送料込)

発行所 株式会社北海道医療新聞社

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目(北海道医師会館)

☎011(221)7777 ホームページ <http://www.medlm.co.jp>

認知症本人ら14人参加

札幌から若年
性本人、介護者

函館で全道交流会

は月
回2月
次来

認知症初期や若年性
認知症のひと家族を対
象とした、どうなんで
しょうの会主催の全道
本人交流会が七日、函
館市総合福祉センター
で開かれた。本人四人
と家族、介護者、サポ
ーターなど十四人が参加
して交流を深めた。写
真。

当日は自己紹介、本
人と家族に分かれたつ
どい、合同での交流の
スケジュールで実施。
本人は同市内在住者
三人と札幌から一人が
家族や介護者とともに
参加。認知症デイサー
ビスを利用しながら在



宅生活を送っている札
幌の男性は「五十九歳、
読書と数字を書くのが
趣味」などとあいさつ。

サポーターとして
は、函館市内で病院に
勤務する看護師や札幌
の認知症家族の会関係
者らが出席した。

どうなんでしょうの
会は、厚生労働省と認
知症関係団体が進めて
いる「認知症を知り、地
域をつくるキャンペー
ン」と連動して八月か
ら函館で活動を開始。
三回目の今回は全道に
参加を呼びかけた。

次回は二十二年二月
二十七日開催を予定し
ている。